



### パワポの著作権

大学講義にパワーポイント使用が一般的になって久しい。私は数年前まで、下手くそな字にも拘らず板書が続いていた。顕微鏡写真や細かい図など、板書では伝えにくいコンテンツだけ、毎回の講義終わりにパワポでまとめて示してはいたが、講義本体は板書にこだわり続けた。板書の良さは、ノートを取る学生たちと板書する教員がシンクロして講義を進められることだ。内容を知って書く教員の側に“板書”の負荷がかかるので、未知の内容、さらに教員の発言からも必要事項を拾ってノートに書き取る学生と、ほどよいバランスだ。それでも調子に乗って進め、まだ学生が写し取り終えていないところを教員がうっかり黒板消しで拭くと「あっ！」という悲鳴にも似た声も挙がるなど、並走して共に講義に参加している一体感があった。

パワポの全面導入に踏み切ったのは、チョークアレルギー発症も一因だが、やはり世の趨勢と利便性からだ。講義準備は板書用ノート整理よりパワポ・スライド作成の方が少し手間だが、一度作ってしまえば修正・追加も楽だし、何より講義当日の肉体的疲労が激減した。大教室で二重の黒板を上げ下げし、書いては消しの繰り返して、講義終了時には黒板消しも私自身も粉だらけになるので、真夏でも白衣を着て講義をしていたが、パワポ移行で白衣は着なくなり、主な手作業はPCのクリックだけ。図表・写真、動画もふんだんに使って、提供するビジュアル情報が増大した一方、疲労感とともに受講学生とのシンクロ感もまた激減したように思う。パワポだと教員がついつい先へ進んでしまい、学生のノート書きが追いつかない。アニメーションで文字列が書き速度で現れるようにもしてみたが、なかなか板書のようにはいかない。スマホカメラ機能の向

上で学生側の対処法も変わり、今や講義はちょっとした撮影会である。

学生アンケート等で私の講義は嬉しいことに高評価なのだが、改善要望として常に挙げられるのが、スライドのハンドアウトを配布しない、スライドファイルを学内ネット共有していない、この2点である。2003年に米国MITで始められた講義ノート等を公開・共有するオープンコースウェア(OCW)は、日本でも主要な国立・私立大学が日本OCWコンソーシアムに加盟し、所属教員に講義資料の提供を呼びかけている。フェイクニュースが溢れる中、科学に関しても誤った内容の記事もネット上に数多くあるので、大学の講義資料という、いわば専門家のお墨付き情報は、正しい知識を得たいユーザーにはありがたいだろう。その意義・有用性を認めながら、私はOCWに参加していない。私が講義で使用しているスライドの多くは、様々な教科書や書籍からの引用・転載を含んでいるからだ。同じ事柄でも教科書により異なる工夫の施された多様な図を提示して、各学生が最も理解しやすい、内容を掴みやすいものに出会ってほしいと思っている。理解・興味の増進を図り、実験結果を原著論文から引用したり、ノーベル賞受賞者をはじめ科学者達の顔写真等をネットから転載したり、キャラクター画像なども適宜添えたりする。これらは、講義室という“閉じた系”での一過性提示ならぎりぎり許されても、OCWのように“オープン”にされたら、必ずや著作権法に抵触する。非営利の教育目的でも、人類共有の知的財産でもある科学論文にも、著作権は今後ますます厳しく細かく問われていく。

利権の絡む特許や個人情報に限らず、情報へのアクセス管理は難しい。入手した情報の切り取り・改変・拡散は重大な誤解を招きかねない。eラーニング、ユビキタスラーニングが広がる中で、教員と学生が教室に集まって一緒に学ぶ“ライブ・パフォーマンス”講義の意義を改めて考えている。学生がスマホ撮影したスライドを「上手く撮れたからクラスLINEにアップした」などと聞くと、どういう扱いになるのだろうかという不安を膨らませながら。

(つゆくさ)